

彙 報

学 内 報

昭和二十六年年度大学院卒業論文題目

西鶴と江戸

栗 林 章

芭蕉俳諧の特質について 藤 野 泰 志

昭和二十六年年度学部卒業論文題目

「堀川波の鼓」「繡襦三重帷子」の一考察 上 田 悦 子

児童文学論—特に童話について—

大 井 昇

時の行衛

尾 崎 爽

「東海道中膝栗毛」の笑の構成について

片 岡 国 江

万葉集の用字に關する一考察—その数字使用を中心として—

神 堀 忍

八百屋お七物語

塩 川 真 太 郎

永井荷風論—冷笑を中心として—

塩 田 進 康

藤村の「家」に於ける人間と自然

田 中 敬 祐

大正戯曲史

谷 敏

斎藤茂吉「短歌写生の説」研究

谷 沢 永 一

単位の認定を通して見たる児童の国語意識の発達

田 淵 三 郎

萩原朔太郎論

佃 誠

二葉亭四迷研究

土 屋 恵 一

狂言に關する一考察

西 野 秀 英

好色一代男考察

寺 嶋 ユ キ ミ

芭蕉の文学を規定するもの

福 間 新 吉

平家物語に於ける女性の性格

吉 野 善 三 郎

作品を通じて見られた西行の自然観照について

淺 井 勇

西鶴のリアリズム

有 家 健 三

徒然草の一考察

生 水 清 人

夏目漱石「明暗」を中心として

池 上 保

「奥の細道」に關する連句について

石 田 逸 一

破戒論

上 島 巖

茂吉写生論の考証的誤謬—「短歌写生説」に見るその一端—

字 沢 甚 吉

芭蕉の研究—俗について—

内 田 章

有島武郎論

奥 田 清 和

芭蕉論

木 村 蓉 子

好色物に現れた西鶴の人間観

窪 敏 宏

「詩と時論」研究序説

小 久 保 実

宮沢賢治の文学に及ぼした諸影響と「第四次元の藝術」について

小 浜 博

二葉亭四迷—「浮雲」における新旧両思想の交流—

小 林 彌 之 助

源氏物語の研究

沢 井 二 郎

田山花袋小論

清 水 明

鴨長明の遁世について—方丈記を中心として—

杉 森 芳 雄

北村透谷の思想

清 家 直 樹

「好色一代女」の仮名遣と語法

高 谷 修 一

林芙美子小論—人と作品—

竹 内 左 門

永井荷風の藝術に就いて

竹 村 早 遠

「狂み」の理念について 田所準之助
啄木晩年思想の研究 田中文男
樋口一葉の文学とその世界

玉井敬之

「現代仮名づかい」に対する一考察、

辻川季三郎

兼好法師論

中村定男

拾遺愚草の考察—歌風を中心として—

鳴上善治

現代助動詞（口語）をめぐる

西野正雄

北村透谷と近代日本文学の成立

花折作治

芭蕉の「さび」の成立について

橋本行雄

銀の匙

日向正二

近松研究—人物の描写の考察を中心として

福井正

山本有三論

藤井甚弘

文学にあらわれた現代のなやみ—椎名麟三

藤田敏朗

を中心にして—

現代の人形舞臺に於ける近松世話物より—

心中天の綱島について—前川圭子

「好男一代男」の成立過程—西鶴の人的

興味に関する序論—

牧野博

近松の仏教思想

松川春樹

伊勢物語に描かれた愛情の世界

三木浩

平家物語の一考察—平家物語を通しての人間性—

村上卯之助

「冥途の飛脚」について

矢内秀一

「恋女房染分手綱」考察

矢島衣子

西鶴の社会観について

安原実

春雨物語の研究

山中照子

自然主義文学と島崎藤村の「破戒」

山村正二

林芙美子の文学

山本とし子

生活と短歌

山森緑朗

形容語詞の史的考察—特にウタテンを中心として—

米田勝

小説に現われた谷崎潤一郎の作家精神

石井齊

関西大学国文学会

総会

昭和二十七年総会を、六月十五日(月)午後一時より、天六学舎に於て開催。出席者約六十名。前年度行事報告、会計報告、

役員改選(会長澤瀉教授、他は会長指名)の後、新年度の行事その他について懇談した。

講演会

●五月十日(土)午後一時より、大阪朝日新聞社講堂に於て、万葉学会と共催。聴衆者約四〇〇名。

万葉集より万葉集へ 澤瀉久孝
上代漢文学の一考察 神田喜一郎
日本文学の動向と万葉集 高木市之助

●五月十九日(月)午後三時より、大学院に於て開催。

近世町人文化の生成 磯峻康隆
西鶴に関する二三の問題について 野間光辰

研究会

●五月二日(金)午後一時より、千里山学舎に於て、第一部国文学研究部総会開催。

●五月十七・十八日、天理図書館、大阪毎日新聞社に於ける日本近世文学会研究会並びに公開講演会に、十数名参加。

●五月二十三日(金)午後一時より、図書館に於て開催。

近代文学の一性格 岡沢忠男

万葉集の法制二つ 神 堀 忍

五月二十五日(月)、伊勢上野方面に、芭蕉研究を行った。飯田・吉永教授、林講師

指導の下に、参加者約四十名。

六月十五日、総会に引続き、天六学会に於て開催。

傳達官語学の否定 坂 口 兵 司

源九郎狐 中 野 貞 作

近世文学に現れた夢について 西 岡 展

六月二十一日(土)、大阪女子大学に於ける日本近世文学会関西支部研究会に、十数名参加。

六月二十二日(月)、天六学会に於て、第二部国文学研究部(学友会)総会を開催、引続き左の研究発表を行った。

官語の社会性と国語教育 池 畑 明
藤村「夜明け前」の素材について 岸 本 治 郎

三夕の歌について 前 田 欣 香

大阪国文談話会

三月一日正午より、成蹊女子短期大学に於て懇談会開催。

六月八日午後一時より、関西大学に於て

懇談会開催。契沖阿闍梨顕彰会、夏季講座の件その他について、懇談した。なお研究会も上古・近世その他の各部会が、着々研究を進め、或は進めようと計画している。

受 贈 誌

- 人文学報五(東京都立大学人文学会)
- 国語学八輯(国語学会)
- 大谷学報三一(大谷学会)
- 人文論究二ノ二(関西学院大学文学部)
- 京都女子大学紀要四(京都女子大学文学部)
- 学苑一三ノ一一・一四ノ一(光葉会)
- 藝林二ノ六・三ノ一・二(藝林会)
- 立命館文学八〇・八一(立命館大学人文学部)
- 日本文学史研究一五(日本文学史研究会)
- ばんせ(三色菫の会)
- 日本女子大学紀要一(日本女子大学文学部)
- 国文一(東京文科大学国語国文学会)
- 天理大学学報(天理大学人文学会)
- 語文四(大阪大学国文学研究室)
- 愛知大学文学館叢四(愛知大学文学部)
- 平安文学研究七・八(平安文学研究会)
- 白珠一月・二月・四月・五月(白珠会)
- 研究一(神戸大学文学部)
- 国立国語研究所年報二(国立国語研究所)
- 文学論叢(文学部)

東洋大学国文学会) 国語国文研究四(北海道大学国文学会) 文藝研究九(日本文藝研究会) 文学会誌二ノ二(山口大学文学会) 国語一ノ二(東京文理大学国語国文学会)

◆投稿規定◆

- 一、投稿原稿は、四百字詰二十枚以内とします。
- 一、原稿は、国文学会宛にお送り下さい。
- 一、原稿の採否は、編集委員に御一任下さい。
- 一、原稿の返送を希望される方は、送料を添えて下さい。

◆購読について◆

- 一、購読希望者は発行所宛前金を添えて御申込下さい。
- 一、送金は成るべく振替(大阪二五八四四)を御利用下さい。
- 一、五部以上一括御申込の際は、一割引と致します。(送料不要)